

日本男子レスリングにおける普及と発展を促すための一考察  
—「する」「みる」「ささえる」スポーツという点に着目して—  
A Study on the Spread and Development of Men's Wrestling in Japan  
Focuses on the sports, Play, Watch, Support  
1K10C027-4 池田 圭介  
指導教員 主査 岡田 純一 先生 副査 友添 秀則 先生

## 【序章】

レスリングは世界的に見ればメジャーなスポーツであり、世界最古のスポーツと呼ばれるほどの伝統もある。しかし2013年に、国際オリンピック委員会（IOC）によって、五輪正式種目から除外されかけ、今日のレスリングの存在意義が問われた。また日本国内に目を向けると、観客はレスリング関係者ばかり、試合会場も殺伐としていて、メジャースポーツであるとは言い難い。

近年、日本のレスリングはオリンピックでも数多くのメダルを獲得しているのにもかかわらず、競技人口は約7000人しかおらず、観客もほとんど増加していないことに疑問を感じた。様々な要因が考えられる中、この問題を解決し、今後我が国においてレスリング競技が普及発展する可能性はあるだろうか。レスリング競技の未来のためにも、この可能性を考察しなければならない。

本研究は、日本のレスリングが今後さらなる普及・発展するための一助となる資料を得るため、レスリングが日本に導入されてから現在までの発展経緯および、Jリーグの設立を境にサッカーがメジャースポーツへ駆け上がった要因を考察した。そして日本レスリングが普及していない要因を明らかにするとともに、さらに発展するための方策を推察することを目的とした。

## 【第1章】

本章では、日本にレスリングが導入され、今日までに普及・発展してきたかの経緯を明らかにした。

日本レスリングは八田一朗らによって普及発展がなされてきた。八田らは国内のみならず、海外遠征や国際試合、外国人選手の招致などを積極的に行い、競技レベルの強化を図った。また「八田イズム」という独特の指導法により、マスメディアを大いに活用し、レスリングの普及を推進した。そして、何人もの世界王者を輩出し、「レスリング王国日本」と呼ばれるほどになった。

2012年に行われたロンドン五輪では全競技の金メダル獲得数の半数以上を獲得し、現在に至る。

## 【第2章】

本章では日本のレスリングの現状を明らかにした。競技人口は約7000人しかいないにもかかわらず、オリンピックでメダルを逃したことは一度もないのがレスリングである。しかし財政面では、助成金や補助金が多くを

占め、自立している競技団体とは言えない。また日本のレスリング協会は1946年に「アマチュア」の文言が削除され、1974年に五輪憲章からも「アマチュア」の文言が削除されたにもかかわらず、いまだにアマチュアリズムが存在している。

## 【第3章】

本章ではアマチュアの文言が削除された日本のレスリングをビジネス化する方策を考察した。間野は「する・みる・ささえる」の3つの面がバランスよく増えていかないと結局「する」人も増加せず、総合的発展は見込めないと述べている。また日本国民におけるスポーツ観戦率は年々増加傾向にある。そのため、レスリングを「みる」「ささえる」という観点から総合的にレスリングを発展させるための考察を示した。

## 【第4章】

本章ではもともとマイナースポーツであった日本のサッカーが「Jリーグ」を転機にメジャースポーツへと成長していった過程を示した。Jリーグの理念として「する」「みる」「ささえる」という点で特化したサッカーを参考にレスリングの発展について考察した。理念、組織構成、サポーター制など参考にすべき点が多々存在した。

## 【結章】

本章では第1章から第4章までの明らかになったことから、レスリングはより、「みる」「ささえる」という点で発展していかなければならないという結論が導き出された。よりレスリングを商業化させ、「みる」「ささえる」スポーツとして成長していかなければならない。しかし商業化されるということは勝利至上主義になるということであり、個々のスポーツパーソンシップを高める方策をとっていくということにより日本のレスリングが発展すると示唆された。